FLPS

Fuzoku Lounge for Practical Studies

ふぞく研究ラウンジ no.15

発行：2025.1.17
編集：鳥取大学附属学校部

「ふぞく研究ラウンジ」は、鳥取大学附属校４校園が取り組んでいる教育研究の「今」をお知らせする広報紙です。地域の教育研究者の皆様とともに地域の教育について考えるための「対話」の場をつくりたいとの思いからスタートしました。

第15号では、今年度の取組を紹介しております。皆様からのご意見やご感想をフォームにてお聞かせください。

附属特別支援学校

研究主題

6歳から20歳までの『自分づくり』を育む教育実践～生涯学習の観点から教育内容を考える

本校は「生活を楽しむ」という教育理念のもと、一人一人の主体的な自我・自己の発揮を支える「自分づくり」の考えを基盤にして、児童生徒学生の内面とライフステージを大切にした教育活動を追究しています。

本年度は、３年計画の２年目として、「深める」年として授業づくりを中心に取り組んでいます。１年目で蓄えた児童生徒学生理解、「生涯学習」に関するキーワードをもとに本校の研究の中心となる「自分づくり」を大切にした授業実践に取り組んでいます。昨年度に引き続き、各学部の生涯学習のとらえが異ならないよう、本年度も生涯学習を「自分づくり」＋「社会参加（社会とつながる）」学習ととらえ、授業づくりに取り組んでいます。

表１　研究計画

1年次	児童生徒学生を深くとらえよう	「蓄える」の年
2年次	実践を確かに	「深める」年
3年次	評価を活かして改善しよう	「広げる」年

授業づくりでは、児童生徒学生が何を学ぶのか、教師がどのように指導するのか、なぜそれを学ぶのか、またライフステージや児童生徒学生の願いを大切にして進めました。７月には公開研究会で講演していただいた神戸大学の津田英二教授を本校にお招きし、各学部の取り組みについて助言をいただき、実践に生かしました。また、年間を通して研究活動の充実を目的として、各学部で研究協力者の先生方を招いて研修を行ったり、「自分づくり」について理解を深めるために校内で職員研修を行ったりしました。

表２　研究授業の様子

小学部　生活単元学習

探検！冒険！大発見！
～わたしたち湖山探検隊～

「ありのままの自分でいられること」「一緒に活動する楽しさを感じられること」を小学部の生涯学習の観点とし、授業づくりを行いました。

中学部　課題学習「詩に親しもう」

「オノマトペの花」を作る活動を通して、表現が広がる感覚や言葉っておもしろいなという気持ちが生まれるような「学び合い」「伝え合い」を大切にした学習に取り組みました。

高等部本科 作業学習「仕事の基本を身につけよう」

生徒自身が学びの「主体」となり、「主体的に取り組む力」を引き出していけるように目標設定シートを活用しながら、日々のふりかえりを言語化し記録を残すよう実践に取り組みました。

高等部専攻科　研究ゼミ（参観week）

研究ゼミでは、「知りたい、やってみたい、調べたい」という意欲を膨らませ探求活動を通して知識を深めたり情報活用の力をつけたりして、「他者へ伝えたい」という欲求をもってコミュニケーションの力を高めることをねらいとしました。

附属幼稚園

令和6年度　研究テーマ

子どもが夢中になって遊ぶ 保育を目指して
～次の保育につながる 環境の再構成～

本園では、子どもが自ら遊びを見つけ試行錯誤し遊びを深めていく中で、様々な経験をすることを大切にして、「遊びは学び」をキーワードに保育実践と研究に取り組んでいます。

今年度は「次の保育につながる　環境の再構成」ということに重点を置き、さらに子どもが夢中になって遊ぶ姿を目指しています。日頃から、フォトエピソード記録やフォトトーク等で、保育者同士のカンファレンスをしています。昨年度の「遊びの深まりのイメージ」はそのままに、カンファレンスの内容を踏まえて「環境の再構成」を行うことで「保育者の援助」を充実させて次の保育につなげ、遊びがさらに発展するようにしています。「環境」とは、安心安全に遊べる場の環境を整えることを前提として、遊具や保育室等の物的環境・保育者や友だち等の人的環境など様々に考えられます。保育のねらいや内容を踏まえつつ、子どもの姿をとらえ、環境を柔軟に再構成していき、その結果も含めてフォトエピソード記録としてまとめ、考察しています。そして、保育者の援助の視野がより広がるようにしていきたいと考えています。

昨年度から取り組んでいる「フォトエピソード記録」の「カンファレンス及び環境の再構成」のページについて紹介します。保育者同士のフォトトークの中で、カンファレンスを行い、様々な考えを出し合います。そして、次の保育につながるように環境の再構成を考えていきます。これらの内容をまとめていきます。（図 1）

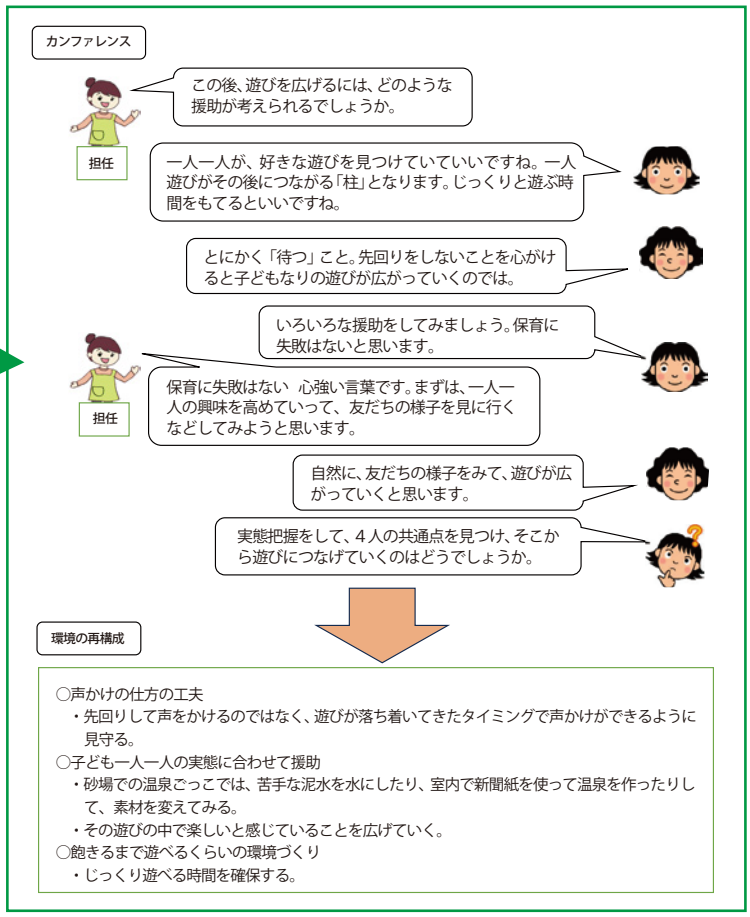
●フォトトークの流れ

❶ フォトエピソード記録の概要を説明する。
❷ 写真の説明、相談したいことを話す。
❸ カンファレンスをする。
- 「相談に対してのアイデアやアドバイス」、「環境の再構成の具体案」について話し合う。
- 話し合いを中心に行い、必要に応じて付箋等を使う。
- 要点を記録する。

❹ どのように環境の再構成をしていくか話す。

子どもたちにとって、遊びは学びそのものです。これからも子どもたちが豊かな経験を積み重ねる保育を実践し、夢中になって遊ぶ子どもの姿を目指していきたいと考えています。

カンファレンス及び環境の再構成　（図 1）



研究主題

自律して学び続ける子供の育成
～単元内自由進度学習の導入～

附属小学校

仲間と共に

[教育の背景]

コロナ禍以降、AIの想像以上の急激な進化等、将来の状況が予測困難で、より高度な柔軟性や適応力が求められる変化の激しい時代に生きる子供たちにとって必要な資質・能力についてOECDをはじめ、世界の様々な機関で検討が進められています。我が国では、目指すべき未来社会の姿としてSociety5.0が示される中、教育分野でも政策が示され、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や「そろえる」教育から「のばす」教育への転換、教授パラダイムから学習パラダイムへの転換が求められるようになってきました。

つけたい資質・能力

❶自らの学習を自己調整する力

❷自分に合った学習方略を獲得する力

❸他者と協働する力

対話を通して

[単元内自由進度学習の導入]

このような状況下で、本校では子供につけたい資質・能力を左記のように設定しています。このような資質・能力を育むために、近年、個別最適な学びの充実に向けた学習モデルとして注目されている単元内自由進度学習を導入した取組を本年度より進めています。本校では、特に義務教育においては、これまでの「そろえる」教育である教授パラダイムによる資質・能力の育成を土台としながら、「のばす」教育である学習パラダイムに転換して子供の資質・能力の育成を目指しています。そして、本校の単元内自由進度学習は、一単元内の学びを「学習の手引き」「振返りカード」「課題・発展シート」にまとめ、一つの教材としています。そして、子供は学習の手引きを参考にして単元の学びを自分のペースで、自分に合った学び方で進めていきます。多少直感的な数字ですが、教育課程総時間数の1割程度、100時間以内の実践としています。

自分のやり方で

[令和6年度研究発表大会]

R6年度研究発表大会では、昨年度の参加者を大幅に上回る120名以上の教育関係者にご参加いただきました。単元内自由進度学習に興味のある先生方が多くいらっしゃいました。教育委員会からも多数のご参加をいただき単元内自由進度学習への関心の高さがうかがえました。

単元内自由進度学習は、平成に入ってから教育の個別化・個性化として注目を浴びていますが、目的論よりも方法論に偏ってしまった結果、下火になった経緯があります。何のために単元内自由進度学習を行うのか見失ってはいけません。来年度は、本年度の研究成果・課題を元にして、自由進度学習導入の2年目を公開していく予定です。地域のよき学習モデルとして提案できればと考えています。

※年度末に配信する研究紀要に手引き等の詳細を掲載する予定です。

研究発表大会での分科会の様子

附属中学校

研究主題

ともに広げ ともに深める やりくり 授業の設計(2 年次)

本研究主題を設定して2年目を迎えました。東京大学教育学研究科の藤村宣之教授にご指導をいただきながら授業づくりを行っています。本校の研究主題にある「やりくり」授業とは、答えや解法が１つに定まらない問いを設定した授業を意味しています。その問いに挑むためには、生徒は既存の知識や技能をどのように使うか、必要な情報をどのように獲得するかを考える必要があり、その過程で、思考力・判断力・表現力を養うことをねらいとしています。答えが1つに定まらない問いに取り組むことで、生徒は多様な知識を活用し、自分以外の人の視点に刺激をうけながら思考を深めていけるのではないかと考えています。

また、本校では「他者と関わり合う力」や「社会の作り手として考える力」を育てるための授業手法を「ともに広げ　ともに深める」という言葉で表現しています。これは2021年に出された「令和の日本型学校教育」にも盛り込まれている「他者との協働」する力や「社会の創り手となる」力を示しています。

ともに広げともに深める活動とは、物事を多角的に見る「水平思考」 と論理的に深める「垂直思考」とを往還しながら生徒が学びを深める学習活動も示しています。

これまでの学校教育では、「垂直思考」の一種である論理的思考が重視されている傾向にありました。しかし、今日の世界は社会情勢が不確定であいまいな「VUCAの時代」 と言われて久しく、子どもたちを取り巻く環境は絶えず変化し続けています。つまり、垂直思考に必要な前提条件が全てそろうとは言えず、前提条件が整った頃には、他の条件が変化していることもあり得ます。

一方、「水平思考」は前提条件にとらわれない思考方法です。水平思考によって「正解のない問題」に対する「考え方の技術」を養うことができると期待されています。そして、これからの世界を生きる子どもたちには、この垂直思考と水平思考を往還できる力が必要だと考え、研究主題を設定しました。

研究発表大会

令和6年7月5日(金)に開催した研究大会では、多くの教科の授業を公開しました。大会前から鳥取大学の先生方にも大変お世話になり、指導助言をいただいてきました。

午後の講演会では「思考の多様性を活かし新しい価値を創造する授業づくり」と題して、藤村宣之先生にご講義いただきました。この講演会では、PISAの調査研究の結果や心理学的な視点をもとに、本校の取り組みがどのように生徒の思考を深めさせているかについてお話していただき、その後も教科ごとに助言をいただくことでより充実した授業実践を行うことができました。

それぞれの教科の具体的な授業実践とその成果につきましては年度末に発行予定の研究紀要に詳細を掲載いたします。リポジトリにも登録いたしますので、ぜひご覧ください。

池畔好日

■第 15 号をお届けします。本号では、附属 4 校園で現在取り組んでいる研究内容を紹介しました。■附幼では「遊びは学び」をキーワードとして保育者の援助の在り方に関して、フォトトークによる支援者のスキルアップを続けています。フォトトークを通して物的環境・人的環境を同僚と共に再構成していく一例を見ていただきました。■附小では「単元内自由進度学習」のなかで身に付けさせたい資質・能力について紹介しました。「そろえる」教授教育から「のばす」学習者教育への転換が求められるなか、R6 年度の研究発表大会には 120 名超の教育関係者の皆様のご参加をいただきました。地域の研究課題のひとつにタイムリーに応えられたためでしょう。■附中では「やりくり授業」で、生徒が既存の知識・技能をどのように活用するか、必要な情報をどのように獲得するか、これらの過程における思考力・判断力・表現力の育成をねらっています。答えがひとつに定まらない非定型の課題を設定することで、自分以外の人の視点に刺激を受けながら思考を深めることで「他者との協働」の大切さ・有効性に気づくきっかけになると考えています。■附特支では生涯学習の視点に基づいたライフステージを大切にした 6 歳から 20 歳までの一貫教育を目指しています。 小学部から高等部専攻科まで、「自分づくり」+「社会参加」につながる教育カリキュラムの構築を目指しています。■地域のみなさまが感じておられる教育課題に対して、少しでもお役に立てるような教育実践研究の展開を目指しております。読後の感想と共に身近な教育課題をお聞かせ頂ければ幸いです。